

令和元年8月9日

## 基礎から分かる県内中世城館 ～お城にGO!～



鳥取県埋蔵文化財センター  
係長 中山 寧人

## 本日の内容



- 1 はじめに
- 2 中世城館と中世社会について
- 3 中世の伯耆の様子
- 4 県内の中世城館 ～東伯耆を中心に～
- 5 おわりに

## 南北朝の争乱・観応の擾乱

鎌倉幕府滅亡・室町時代はじめ（約600年前）

〔鎌倉幕府滅亡〕

☞ 後醍醐天皇を中心に鎌倉幕府倒幕→鎌倉幕府滅亡

〔南北朝の争乱〕

☞ 後醍醐天皇と室町幕府将軍 足利尊氏の争い

→ 朝廷が南朝（後醍醐天皇派）と北朝（足利尊氏）となり争乱となる

〔観応の擾乱〕

☞ 室町幕府将軍 足利尊氏と弟 足利直義の争い

→ 幕府が二分され、全国的な争いとなる

## 中世城館・山城の誕生



☞ 鎌倉幕府倒幕・南北朝の争乱・観応の擾乱の後に爆発的に全国的で城が造られる

→ 急峻な山に造られる山城も多数  
中には山岳寺院に山城を造る場合も

↑  
戦うことより立て籠もることを重視

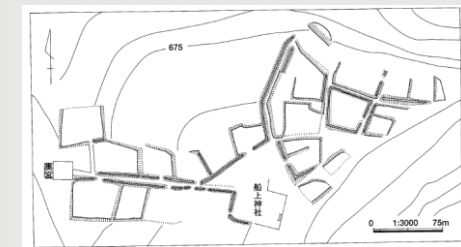
例) 史跡船上山行宮跡：寺院  
千早城（大阪府）：籠城用の城

## 史跡船上山行宮跡



山岳仏教の聖地、後醍醐天皇が名和長年と3ヶ月立て籠もり、鎌倉幕府倒幕の気運をつくった。

## 史跡船上山行宮跡縄張り図



四角の区画は、僧坊跡であり、山城の施設ではない。

## 中世城館の変遷

- 室町時代の前半 (14世紀)
  - 多くの山城は臨時的な施設
    - ←戦の時のみ山城に立て籠もる
    - ※だから発掘調査でも出土品が少ない
  - 通常は山麓の館で生活
- 室町時代後半 (応仁の乱以降 15世紀～)
  - 恒常的な施設として城館が機能
  - 日常生活をするため、急峻な山以外にも築城
    - ※発掘調査での出土品も多い

## 応仁の乱

- 八代将軍 足利義政の後継者をめぐり、弟 足利義視、子 足利義尚が争い、その結果、幕府重臣も巻き込んだ全国的な争乱 (戦国時代の始まり)

- 足利義視派 (東軍) : 大将 細川勝元 (管領)
- 足利義尚派 (西軍) : 大将 山名持豊 (四職) (山名宗全)



※伯耆守護山名氏の宗家  
↑  
本拠地：但馬 (出石)  
← 此隅山城  
※小山の山城

## 応仁の乱以後の中世城館

- 恒常的に生活する城館 ← 防御施設の充実 [防御施設]
  - 曲輪 : 自然地形を削平した平地  
屋敷や防御施設を建てる場所
  - 切岸 : 曲輪の端を絶壁にし、登れない崖にしたもの
  - 堀 (横堀・縦堀) : 山の斜面に縦や横に掘りを掘った物
  - 土塁 : 曲輪の端に土で土手を築いたもの  
土塁の上には柵等を設置していた

## 城の施設の例

狗戸那城(鹿野町)



## 中世社会の武士

- 室町時代の武士の種類
  - 守護 : 幕府から任命される国の統治者
  - 地頭 : ”
  - 奉公衆 : 室町幕府将軍の直属の家臣
  - 守護代 : 守護が赴任国に不在の時の代理
  - 国人 : 幕府の官職のない武士

- 例) 伯耆守護 : 山名氏
- 甲斐守護 : 武田氏 (武田信玄)
- 安芸の国人 : 毛利氏 (毛利元就)

## 中世の戦の様子

- 城の中では
  - 戦いのないとき : ほぼ城造りの土木工事
    - ※急場の城は盛る工事はせず、削平中心
  - 兵糧 (食料)
- 戦の期間
  - 1年中戦はで
- 村人の参戦では
  - 村人が戦にかり出される時の条件 : 年貢免除
    - ← 領主も戦に臨む時は慎重に



### 中世の伯耆の様子

#### ①南北朝～室町期（15世紀）

山名氏が伯耆守護職として支配

山名師義→氏之→熙之→教之→豊之→政之

元之

政治的変動 応仁・文明の頃（1470頃）

1471 山名豊之（教之の子 守護）の殺害

1472 山名教之（前守護）下向→伯耆

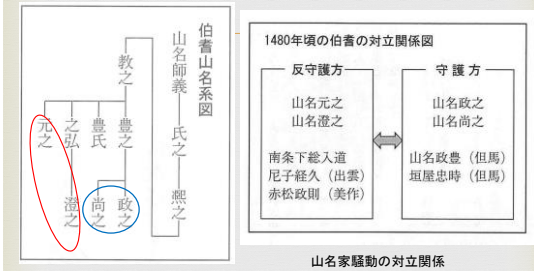
1473 教之 病死

→守護の後継者争いで山名家中の分裂

### 伯耆の国人と伯耆山名氏



### 伯耆山名氏の分裂



#### ②永正～天文期（16世紀前半）

尼子経久の伯耆進出  
山名家の内部抗争：山名尚之 v s 山名澄之  
→山名澄之を尼子経久が支援し、勝利へ

美作・播磨へ尼子氏が侵攻  
美作を平定し、播磨に進出（播磨の赤松、別所を攻撃）  
↓  
美作の国人と伯耆の国人（南条・小鴨・山田）が連合して尼子氏に対抗、しかし、敗北  
← これから南条氏等は、尼子氏の配下として行動  
安芸郡山城（毛利氏）攻めにも参加

#### ③永禄年間（16世紀後半）

安芸毛利勢力の拡大。尼子勢力を圧迫。

[永禄5年（1562）]  
国外に逃げていた伯耆の国人（南条氏など）が本拠地に戻る  
← この後、伯耆の国人は毛利傘下になる。

[永禄9年（1566）]  
毛利軍に攻められ、尼子義久降伏、月山富田城落城

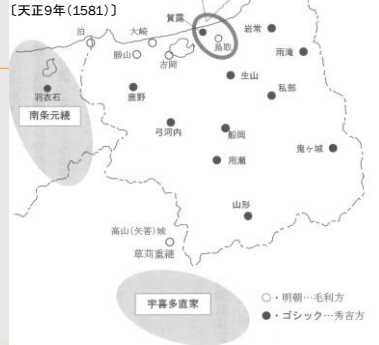
#### ④天正年間（16世紀後半）

[天正7年（1579）]  
南条元統、宇喜多直家が毛利方から織田方に寝返る  
← 織田方の影響力が一举に東伯耆まで広がる  
織田方の因幡・伯耆侵攻が本格化

織田（羽柴秀吉） VS 毛利（吉川元春） 勃発

※織田方の総大将：羽柴秀吉 毛利方の総大将：吉川元春

### 織田軍（羽柴秀吉）の鳥取攻め状況



### 鳥取城救出を巡る東伯耆の攻防

○毛利方  
鳥取城に物資を補給するためのルート確保をめぐり織田方と衝突

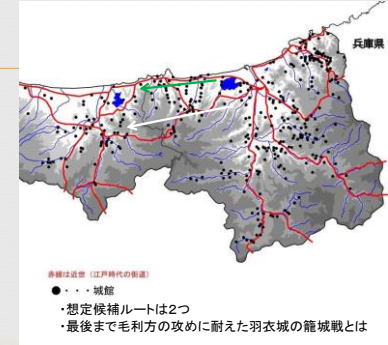
←陸上ルート：羽衣城（織田方南条氏）により既に遮断  
岡山ルートも織田方宇喜多氏により遮断  
水上ルート：泊の河口城（毛利方）

↑  
織田方の松井水軍により落城

↓

**鳥取城落城：因幡は織田方に！**

### 織田方（羽柴秀吉）の羽衣城救出作戦



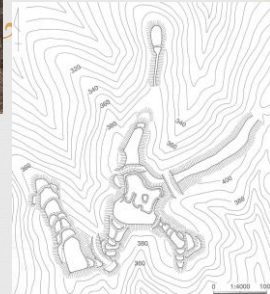
### 東伯耆の主な中世城館



羽衣石城



羽衣石所在城(十万寺)



河口城(泊城)



